

第3回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成30年7月26日(木)

2 場所 新見市役所3階 第4委員会室

3 出席状況 出席8名

部会長	森岡 繁信	出席	副部会長	今田 一成	出席
委員	森田 寿	出席	委員	鈴江 恵子	出席
委員	富部 透	出席	委員	小川 環	出席
委員	多賀 紀征	出席	委員	仲田 紗らさ	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 議事内容

1 開会

2 あいさつ

部会長挨拶

3 協議

各委員の発言要旨は次のとおり。

- ・スポーツ庁のホームページにスポーツを地域資源として活用し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図るということが記載されており、この部会で話し合っている内容と一致している。
各地で地域性を活かした取り組みが行われており、新見市であれば、ソフトボールがある。それから、クアオルト健康ウォーキングがある。
健康志向で誰でも参加できるスポーツとソフトボールのように参加ではなく競技を観戦するスポーツの2つに分類ができる。
- ・3月の全国中学ソフトボール大会は、新見をPRする良い機会である。
2、3店の出店はあるが、ピオーネなどの特産品を加工したのもでも販売すれば良いPRになると思う。
- ・3月の終わりという時期は、あまりいい時期ではない。

- ・開催時期を検討するように教育委員会が調整したことがあったが、日本ソフトボール協会がすべて日程を決めており、変更は難しい状況である。
- ・各スポーツにおいて指導者が不足している。また、宿泊も市内だけでは対応できない。高梁市などへ宿泊している選手もいるが、何とか市内に宿泊することができればいいと思う。
- ・ソフトボールはオリンピックの正式種目でもあるため、選手に来てもらいスポーツ教室の開催が可能ではないか。その際に、特産品や観光案内などができればいいと思う。地元チームとの対戦などもできたら面白い。
- ・活躍している選手と交流ができればいいと思う。哲西で開催しているJTの森のイベントでは、JTのバレーボール選手が毎回3人程度来ている。こういう方に指導などをしてもらうことは可能であると思う。
- ・現役選手でなくてもソフトボールなどで活躍した選手に指導をしてもらうようなことができれば、多くの人が集まると思う。
- ・豪雨災害の関係でダムが注目されている。大雨が降ったときのダムの関係、防災などについて、親子で勉強するツアーなどを企画してもよいと思う。
- ・今、ダムや環境について教育をしておかないといけない。悪い面も教育として知っておく必要がある。
- ・高瀬ダム、三室ダムなどを新緑や紅葉と一緒に見てもらうのがよい。また、ダムが放流している状況を見てもらい、ダムについて知ることが必要である。
- ・ダムの放流など、防災面、機能面などの役割等を知ってもらうことは必要である。
- ・災害関連で、新見市の面積の86%は山林が占めているが、森林の保全管理ができておらず、このままでは放置が進んでしまう。所有者が不明、境界が不明などの課題解決に向けて取り組む必要があり、行政も何らかの対応が必要であると思う。また、森林・木材を活用した産業振興につながればよい。
- ・所有者の不明など相続ができない山が多い。価値のない山に対して登記などもされていない状況である。災害が発生しそうな山林は、強制的に

保安林にする必要性を感じる。

- 社会教育の関係で皆さんからご意見がありますか。ダムについての教育も一つの社会教育としてのテーマになると思う。
- 体験学習をすることは良いことである。一般的に良い面、楽しい面を見せることは多いが、大変な面、悪い面など、危機感を持たせる教育も必要である。
- ゴミ、森林、発電などダムを通してのテーマは豊富にあるが、お金が流通する仕組みのアイデアが、すぐに思い浮かばない。ただ勉強するだけではなく、継続性があり、何か市内経済が活性化する仕組みが必要であると思う。ダムは、テーマとして可能性があると思う。
- 旅行業者にダムのツアー企画を考えてもらい、県南の方に試行的に参加してもらおうやり方もある。
- ダムツアーと何か特産品を絡める必要がある。
- 新見市の観光地でお土産を売っているところがない。また、新見を代表するお土産がない。
- 木材の活用など、新たな特産品を開発することも考える必要がある。商品の開発費も必要になるため、例えばダムツアー代金に含めるなど、新見のお土産を増やすことを考えないといけない。